

投稿日 2024/12/20

96%が満足！「わかる」AIエージェント実践型ワークショップ



はじめに

- 本レポートは、TIS テクノロジー&イノベーション本部 開発基盤センターの生成AI利用促進チームが2024年12月3日に実施した「AIエージェントワークショップ」の概要と成果をまとめたものである
- ワークショップは2部構成で実施し、[株式会社ジェネラティブエージェンツ](#)代表 西見 公宏氏と、AI論文メディア『AIDB』の運営等を行う[株式会社Parks](#)代表 水谷 健氏の2名をゲスト講師として招聘。両氏には講演とファシリテーションをご担当いただいた
- 本ワークショップは業界でも先進的な取り組みであったが、**参加者満足度96%を達成**し、実践的な学びの場を提供することができた

当記事を通し、本ワークショップへのご関心を寄せていただけますと幸いです。お急ぎの方は「ワークショップの概要」までの章をご一読いただけますとワークショップ全体のイメージを掴むことができます。

想定読者

- 生成AIエージェントを活用したシステム開発に関心がある方
- 社内および顧客向けの生成AIエージェントにまつわる研修やワークショップを企画・実施したい方

問い合わせ先

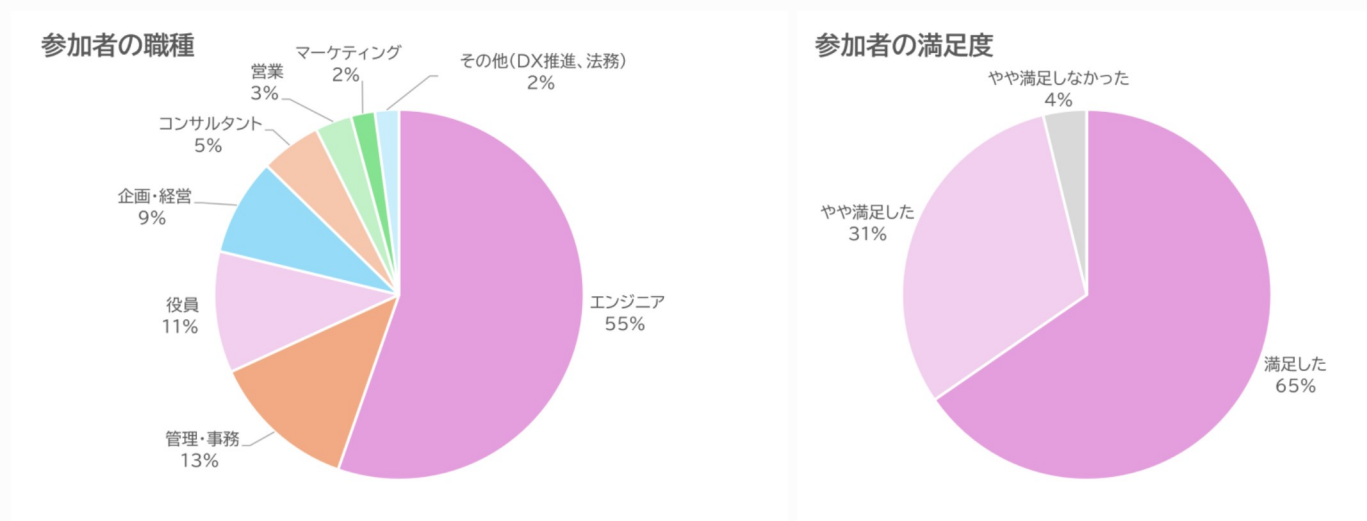
本ワークショップの開催や詳細についてご希望の方は、生成AI利用促進チーム<generative-ai@tis.co.jp>までご連絡ください。本ワークショップ以外の生成AI活用や研修開催におけるご相談事項等も含め、お気軽にお問い合わせください。

AIエージェントワークショップとは？

2024年12月3日に[JISA主催のイベント](#)にて開催した「AIエージェントの業務適用について思考・議論する実践型ワークショップ」のことです。

- ワorkshopには、システム開発企業のマネージャーやエンジニア等である計30名強が参加しました。
- 参加者の満足度は96%を達成し、「自分の考えを共有し、他者の意見を聞くことでAIエージェントに対する理解を深めることができた」といった声を多くいただきました。

ワークショップ後のアンケート結果



参加者の声

- 「自身の考えを共有し、他者の意見を聞くことで、AIエージェントへの理解を深めることができた」
- 「議題やワークがなかなか難しい面もあったが、最終的には色々と議論を交わすことができた」
- 「様々な課題やアプローチが存在する一方、類似・共通する要素もあることがわかった」
- 「考えるポイントがはっきりしており、議論しやすかった」

ワークショップの概要

生成AIエージェントとは

生成AIエージェントは、自律的に計画を行い、複雑なタスクを段階的に実行するような生成AIの仕組みです。人間が指示したタスク達成のための目標を理解し、複数のプロセスを組み合わせる柔軟に課題解決へ向け

取ることも可能です。

生成AIエージェントはこれからのシステム開発において欠かせない存在になると期待されています。一方で、その仕組みや考え方は従来のツールとは少し異なるため、理解を深めるには新しい視点や柔軟な発想が重要となります。

ワークショップの構成

ワークショップは以下の2部構成としました。

- 第1部：講演パート（45分）
- 第2部：ワークショップ（100分）

生成AIエージェントの前提知識がない方も議論に参加できるように、生成AIエージェントの仕組みや必要な要素を解説したうえで、ひとつひとつ理解を深めながら段階的に進められるワークショップ構成としました。



本日のワークショップ

第1部. AIエージェントの仕組みと活用(講演形式)

AIエージェントの基本的な仕組み(4つの要素、ReAct)と現場に導入する目線からの視点で講演者より解説をいただきます。

※質疑応答の時間を含みます。(オンサイト開催・オンライン配信あり)

- 講演者:株式会社ジェネラティブエージェントズ代表 [西見 公宏](#) 氏
- ファシリテーター:株式会社Parks代表 水谷健氏 [AI×メディア AIDB](#)の編集長

第2部. AIエージェントを用いた「課題解決」:ワークショップ形式

- ・「ご自身のもっている課題」をもとに、もしAIエージェントがあつたらどのような解決策が考えられるかを具体的に検討していきます。
- ・AIエージェントの4要素を整理して、課題解決にAIエージェントが有効であるかを、適合面、環境面、経済面から評価します。
- ・AIエージェントの実装を行うことを想定したAIエージェントワークフローの作成を行います。

※1チーム6名に分かれたテーブルごとの議論を含みます

※オンサイト開催のみ(オンライン配信はありません)

- ファシリテーター:株式会社Parks代表 水谷健氏 [AI×メディア AIDB](#)の編集長

©2024 TIS Inc.

ワークショップのゴール設定

本ワークショップは、AIエージェントの可能性や課題を知り、現場で役立てるための視点を獲得すること、AIエージェントの性質を正確に捉えて活用していく第一歩となる場として設定しました。

参加者のゴール

ゴール

- ・AIエージェント活用を、自身の課題にひきよせて具体的に理解する
- ・自社の課題に対してAIエージェントが有効/否を判断する指針を把握する
- ・AIエージェントの向き、不向き、限界を理解し、適しないタスクを理解する
- ・AIエージェント導入に必要な前提条件と段階的導入のための工夫を整理する手法を体験する

ストレッチゴール

- ・AIエージェントのワークフローの設計を具体的に体験する
- ・AIエージェント導入の投資対効果を試算し、着手の優先づけの材料を作成できるようになる

©2024 TIS Inc.

ワークの進め方

ワークショップでは、ワークシートを使った個人やチームでのワークをおこない、生成AIエージェントの適用可能性や課題を検討しました。有識者のゲスト講師による各チームでの議論内容をさらに深掘りするためのアドバイスや、システム開発の現場における課題点の分析や講評も行いました。

本日のワークショップ:全体の構成

ワーク1 自身が直面している課題が「AIエージェントで解決可能か」を言語化してみよう

- サブワーク1 自身が直面している課題を書いてみましょう
- サブワーク2 自身が直面している課題を自己紹介とともにチームメンバーにシェアしましょう
- サブワーク3 もしAIエージェントがあったらどのような課題解決策があるかを議論しながら書いてみましょう
- サブワーク4 課題解決策をもとにAIエージェントの4要素を議論しながら書いてみましょう

ワーク2 AIエージェントで解くべき課題かどうか判定してみよう

- サブワーク1 「AIエージェントが有効な課題かどうか」を判定しましょう
- サブワーク2 「生成AIでなくても解ける課題、生成AIでは解けない課題ではないか」を判定しましょう
- サブワーク3 「実現するために必要な前提条件はクリアできそうか」を議論しながら判定しましょう

ワーク3 AIエージェントのワークフローを作成してみよう

- サブワーク1 AIエージェントのワークフローの作成におけるコツや注意点を知しましょう

©2024 TIS Inc.



記入シート ワーク1-①

名前/所属: Aさん(TIS)

サブワーク1 5分

Q1. 皆さんの職种で、最近遭遇した課題や困難は何ですか？

Q2. その課題に対して、これまでどのような解決策を試みましたが？効果はありましたか？

Q3. もしAIエージェントが関わったら、その課題をどのように解決しようと思いますか？

Q4. AIエージェントを活用することで得られる最大のメリットは何だと思いますか？それは何ですか？

・業務の事務
プロジェクトマネージャー
・生成AIの活用
ChatGPTをよく使っている(有償契約)
・ワークショップで得たこと
PM業務へAIエージェントを活かすためのヒント

記入シート ワーク2-観点②

サブワーク2 1分

観点②『生成AIでなくても解ける課題、生成AIでは解けない課題ではないか』を判定しましょう。

ワーク1で設定した課題解決のうち、エージェントフローを組まなくても実現可能なものと、生成AIエージェントでも実現が難しいものを区別します。

課題がAIエージェントの長所が発揮される領域であるかを判定し、判定してみましょう。

生成AIエージェントを必要としない課題解決	生成AIエージェントでの対応が検討される課題解決
生成AI以外のツールでも対応可能	生成AIエージェントが得意
単純な文書テンプレート生成	文書を考慮した高度レポート生成
定型化されたスケジュールの作成	プロジェクト進捗を考慮したリスク管理
既定ルールに基づくスケジュール最適化	関係者の役割最適化と依頼依頼
静的なデータベースのコードレビュー	過去のプロジェクトを学習した要件定義作成
チェックリストベースのタスク管理	継続的な学習による最新の技術情報への対応
静的なデータベースのコードレビュー	プロジェクト進捗を考慮したリスク管理
静的なデータベースのコードレビュー	関係者の役割最適化と依頼依頼

ゲスト講師による新たな気づきの提供

ワークを通して明らかになった現場の課題に対してAIエージェントの導入を検討する場合、新たな疑問がいくつも湧いてきます。参加者はゲスト講師へ都度質問することで新たな視点を得て、より活発に議論することができました。その一部をご紹介します。

プロジェクト管理の課題を設定したチーム

課題

プロジェクトを進めるにあたり「社内独自の慣習に根付く謎ルール」が円滑なプロジェクト運営の妨げになる場面がある

解決策

AIフレンドリーな書式への情報変換といった環境条件を乗り越え、AIエージェントにサポートしてもらう

導入における疑問

社内の謎ルールは整っていないことが多いが、どうデータ整備するとAIの応答精度は良くなる？

このチームの疑問であるデータ整備をテーマに、ゲスト講師によるディスカッションが展開されました。ゲスト講師からのアンサーにより、参加者は議論では踏み込めなかった観点での気づきを得ることができました。

🗨️ 社内の独自ルールのAIの応答精度は向上させるには？

💡 ゲスト講師からのアンサー

RAGでは一般的にベクトル検索を使い、類似度の高い表現ほどヒットしやすいのが特徴です。実際の質問に近い自然な表現でデータを保存すると精度が上がることがあります。また、ユーザーの質問をそのまま検索するのではなく、適切なクエリへ加工すると効果的です。一方、ヘルプデスクのような一問一答では全文検索が有効な場合もあります。課題である「社内独自の慣習に根付く謎ルールに基づく回答」は、一問一答形式におさめづらいものである可能性が高いです。また現時点でデータが整った形式でないことを推察すると、ベクトル検索が向いているのかもしれません。どちらを選ぶかは、データ量や性能とのトレードオフを考慮して判断し、システムの要件によっては両方を組み合わせる方法も考えられます。

ワークショップ設計の工夫点

ワークショップ設計の工夫点を3つご紹介します。

1. ゴール設定の提示

まず重要なのが、ゴールの明示です。本ワークショップでは、「何を考えるか」と「何を得られるか」という2つの**What**が常に明確となるよう注意を払いました。各ワークでは「現在は〇〇について取り組み、▲▲を理解することが目標」という具体的な指針を示しました。

ワーク1 課題を言語化する

目的

自身の業務課題がAIエージェントで解決可能か検討するために言語化すること

やること

● 課題の設定と共有

自身の業務で直面する課題を振り返り、解決する課題として言語化します。その課題をチーム内で共有しました。この際、「AIエージェントでの解決ありき」ではなく、まず現在の課題を言語化することに重点を置きます。

● AIエージェントでの解決策の検討

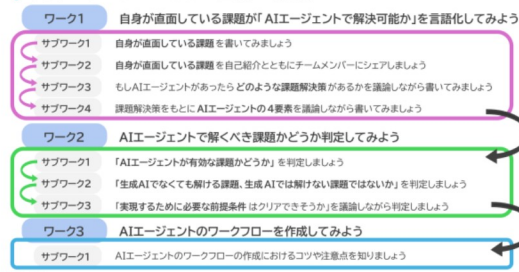
設定した課題に対し、AIエージェントを用いてどのような解決策があるかを議論します。さらに、AIエージェントを構成する「個性」「記憶」「計画」「行動」の4要素に基づき、設定すべき内容を具体化します。


各ワークにおける
「現在は〇〇について取り組み、
▲▲を理解することが目標」という
具体的な指針の提示


2. 段階的な「問い」の設定

まだ馴染みのない「生成AIエージェント」というテーマに対して、参加者の「身近な課題」からスタートし、「生成AIエージェントの適用可能性の確認」→「実現性」までを段階的に進められる「問い」を設定しました。

本日のワークショップ: 全体の構成



「身近な課題」からスタートし、

「生成AIエージェントの適用可能性の確認」を行い、
「実現性」までを段階的に考える「問い」の設定 

自分事として考えられる、かつ、周りの答えも聞いていくうちに、自分の知らない気づきに出会うような体験を目指しました。

3. サンプルの例示

時間制約の都合上、限られた時間内に参加者からのアイデアが出てこないケースに備え、ワークの回答サンプルを多く用意しておきました。

サンプルの例示(一部抜粋)

workごとの成果物の確認観点

順番	対象work	確認観点	ChatGPTの参照URL
1	ワーク1 自身が直面している課題とAIエージェントでの解決策	なし (自身の業務にお	sample_conversation
2	ワーク1 AIエージェントの4要素の整理	<p>制約条件の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題解決策が課題とされる具体的なタスクに引きずられて特定のシーンや場面に限定されていないか AIエージェントの4要素の定義と出力内容を確認し、定義に沿った要素が挙げられているか 従来のツールでの操作やインターフェースなど既存の環境内のみで想定した案になっていないか 初期型生成AIやチャットツールの従来型LLMアプリケーションの機能で対応可能な案でないか タスクの計画や実行と検証の繰り返し (ReAct) といったエージェントのふるまいが必要な案か AIエージェントが作成・参照するアウトプット形式がイメージできる案か 	(同上)
3	ワーク2-経過① AIエージェントが有効な課題か	<ul style="list-style-type: none"> AIでなくても解けるレベルの課題 既存SaaSの標準機能での条件分岐や定期実行、スクリプト等の設定で解決できる案か AIが真に有効なレベルの課題 自律的な手段設定や情報収集を行い、目標達成に向けて実行するような案か プロセスの効率化や最適化などプロセスそのものの改善を自動化させる案か AIでは解決が難しいレベルの課題 データ事件駆動 現実的かつ高品質で検証可能なトレーニングデータは必要ないか レデータ収集・整理の継続コストはないか レデータの稀少性や入手困難性はないか <データ事件駆動を志向する> 専門知識に基づく仮想的な内部への高次元の解釈と判断支援 EOSを経営メタナラクス事業不況の因システムが持つデータをもとにしたナレッジ整理 希少かつ秘匿性の高い有用データをもとにした高次元向け営業支援 	(同上)
4	ワーク2-経過② 生成AIでなくても解ける課題、生成AIでは解けない課題ではないか		(同上)

ワーク2.必要となる前提条件と限定課題とするための工夫

課題解決策

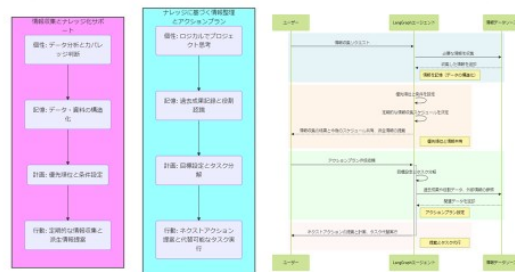
- プロジェクトに関連する情報の収集とナレッジ化サポート
 - 必要となる前提条件: 情報収集に必要なアクセス権の設定、タグ付け・分類基準の定義
 - 限定課題とするための工夫: 特定のPJや分野に絞って導入し、収集データ量を限定し情報の精度を向上させる
- ナレッジをもとにした情報整理やアクションプラン計画の代行
 - 必要となる前提条件: 進捗管理や目標設定のテンプレート整備、暗黙知であるプロジェクト固有のルールの言語化と拡充
 - 限定課題とするための工夫: 短期的なゴールやアクションに限定し、段階的に長期目標へ拡張、特定プロジェクト内の小規模タスクでのテスト運用

観点①: AIエージェント

具体的なユースケース例

- 大量の情報の効率的な構造化と迅速な
- 収集情報の活用や最適化の循環型フロー
- インプット情報の自動収集と整理
- ロジックに基づいた情報整理やアクションプラン計画の代行

エージェントワークフローの作成例



また、回答作成自体を生成AIでサポートする「プロンプト」を10種類以上用意しました。限られた時間内に答えまで辿り着かない場合に、参加者が持ち帰れるアウトプットとしても機能しました。

プロンプト集

プロンプト1

独立系Sierに勤務のエンジニア向けの質問です。回答して

- ・あなたの職場で、最近遭遇した課題や困難は何ですか？（過去の経験を探索させる問い）
- ・その課題に対して、これまでにどのような解決策を試みましたか？効果はありましたか？（過去の経験を探索させる問い）
- ・もしあなたの手元にAIエージェントがあったら、その課題をどのように解決しようと思いますか？（創造性と自分事化を促す問い）
- ・AIエージェントを活用することで得られる最大のメリットは何だと思いますか？それはなぜですか？（価値観を探索させる問い）

プロンプト2

あなたの直面する困りごとを、AIエージェントにお任せすることを考えてみましょう。

課題解決策に対し、4要素を表に整理しましょう。

表

課題解決策、ニーズカテゴリ、個性(Profile) 記憶(Memory) 計画(Planning) 行動(Action)

ニーズカテゴリー例

意思決定支援 新規事業アイディエーション パルソナによる製品シミュ 成果物生成 提案書作成／報告書作成 マーケットリサーチ 業務アシスタント 日程調整
や資料検索 内部向け資料生成 カスタマー コミュニケーションタレント人格の チャットボット化

課題解決策

・コード生成や最適化、バグ修正のサポートによる開発効率の向上

©2024 TIS Inc.

工夫点のまとめ

専門的な領域を扱う際、正確性を追求すると理解のハードルが高くなり、参加者の意欲低下を招く恐れがあります。一方、平易な情報提供に留めると、高い期待を持つ参加者にとって不十分な内容となってしまいます。**前提知識の有無に関わらず、できる限り理解を得られるような調整を工夫しました。**

これらの工夫の効果もあり、「**自分たちで考え議論するという場が想像以上に整えられていた**」といった参加者のポジティブな声をいただくことができました。

まとめ

本記事では、2024年12月3日に実施した「**AIエージェントワークショップ**」の概要と成果をご紹介します。

今後は、現時点のコンテンツをもとに、参加者の属性や傾向に応じたカスタマイズにも対応することで、さらに広いターゲットを対象とすることを検討していきます。

さいごに

TISでは全社的に生成AIを活用していく流れがあり、今後も生成AIエージェントのノウハウ獲得とお客様への価値貢献を目指しています。

本ワークショップの開催や詳細についてご希望の方は、生成AI利用促進チーム<generative-ai@tis.co.jp>までご連絡ください。本ワークショップ以外の生成AI活用や研修開催におけるご相談事項等も含め、お気軽にお

さい。

参考

- 西見公宏. “AIエージェントを現場に導入する目線とは”. Speaker Deck, 2024年7月18日. https://speakerdeck.com/masahiro_nishimi/aiezentowoxian-chang-nidao-ru-surumu-xian-toha, 2024年12月18日.
- 西見公宏. その仕事、AIエージェントがやっておきました。——ChatGPTの次に来る自律型AI革命. 技術評論社, 第1版, 2023年

/* Recommend */

「Generative AI（生成AI）」のおすすめ記事はこちら

この記事に関連する記事もお読みください。

**Generative AI（生成AI）**

NEW

「金融業界特化型AIエージェントワークショップ」開催レポート

2025/06/13  8

**Generative AI（生成AI）**

NEW

OctoNihon Forumイベント発表資料「GitHub Copilotを活用した大規模開発の今と未来」公開

2025/06/06  4

ITアーキテクチャ

NEW

生成AIの新潮流：AIエージェント勉強会を開催しました

2025/05/02  12

最近投稿された記事も用意しました。

**Generative AI（生成AI）**

NEW

「金融業界特化型AIエージェントワークショップ」開催レポート

2025/06/13  8

**Generative AI（生成AI）**

NEW

OctoNihon Forumイベント発表資料「GitHub Copilotを活用した大規模開発の今と未来」公開

2025/06/06  4

ITアーキテクチャ

NEW

生成AIの新潮流：AIエージェント勉強会を開催しました

2025/05/02  12

「Generative AI（生成AI）」で最も読まれている記事を以下にまとめています。

**Generative AI（生成AI）**

GitHub Copilotを用いたAIによるコードレビューの活用

2025/01/28  26

**Generative AI（生成AI）**

NEW

OctoNihon Forumイベント発表資料「GitHub Copilotを活用した大規模開発の今と未来」公開

2025/06/06  4

**Generative AI（生成AI）**

GitHub Copilotを活用した大規模開発～オフショア開発での実践と知見～

2025/02/26  16